



ゆうすい

嘉島西小学校 学校便り

令和4年9月7日
文責：校長 江上 知男



室内に「避難」した鉢と雑巾(1年)

「迷走台風」やむなく休校！

9月に入り「変な方向に進む台風があるなあ…」と
思っていたが、迷走したあげく、大型で強い勢力
のまま九州に接近してしまいました。子どもたちの安全を第一に考え、9月6日(火)はやむなく休校としました。地域等に被害はありませんでしたか？

私は学校で夜明かして「有事」に備えましたが、
幸いなことに被害はなく、本日(7日)からは予定通り学校再開ができました。ホッとしました。

それにしても、近年、自然災害があまりにも多過ぎます。台風・豪雨・洪水等には、「過去最強」「50年に1度」「想定を超えた」…みたいな冠がいつも付いています。災害ではありませんが、「最高気温が40℃超え」と聞いてもあまり驚かなくなりました。理由は様々でしょうが、「地球の気候変動の影響」は間違いなくありそうです。「災害は自分の身に起きるかもしれない」という心の準備が必要だと思います。学校では、始業式時に防災担当の深草先生が、9月1日の防災の日
にちなんで「家族で事前の準備・話し合いをしてください」という話をしています。

私は、今を生きる人間として「気候変動に加担していること」に罪悪感を感じています。次の世代の人たちに、「安心して住める地球」を引き継ぐためには、一人一人が環境のことを考えて小さな行動を起こす必要があると感じています。本当に本当に難しいことですが…。

「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」

夏休みに読んだ本の題名です。手に取ったときは「何のこっちゃ？」と思いましたが、実際に読んでみると、いろんなことを考えさせられる内容でした。著者は、ロバート・フルガムというアメリカ人です。

著者は、「人間、どう生きるか、どんな気持ちで日々を送ればいいのか、本当に知っておく必要があることを、全て幼稚園で教わった。人生の知恵は、大学などの山の上のてっぺんにあるのではなく、幼稚園の砂場に埋まっていた。」と自分の人生を回想しています。??「充実した人生を送るために必要なことは、全て子ども時代に教わったことばかりだった。しかも、それは決して難しいことではなく、当たり前のことばかりだった。」ということに著者は思い当たるのです。

例えば、「何でも皆でゆずり合い、ずるをせず、人を叩かず、使ったものは片付けて、人のものは使わないこと、誰かを傷つけたら謝ること」などなどは、幼少期はもちろんのこと、小学生期でも教えられることです。でも、これは大人になっても人間関係の基本です。これらのルールを守ることは、お互いの信頼関係をつくることにつながります。また、「適度に体を動かし、規則正しいバランスの取れた生活をする」などは、幼少期や小学生期によく気を配られることですが、実は大人になっても、心身ともに健全な生活を送る上ではとても大事なことです。

「充実した人生を送るためには、子ども時代に教えられたことがカギです。今一度、それを思い出して、生涯大切にすべき知恵として心に留めておきましょう」というのが、著者の伝えたいことなのでした。私はこの本を読んで、「なるほど、本当にそのとおりだ。嘉島西小の子どもたちにもぜひ伝えなきゃ!」と納得させられたのでした。

…ところで、「3人の子どもの父親」である私は、ふと不安になりました。それは、自分の子どもたちに「人生を生きていくために必要なこと」をきちんと教えたのか…!?ということ。3人ともすでに成人しているのですが、お恥ずかしながら親として自信がありません(汗)。今更ですが、「このことだけは教えておかなければ、大人として・社会人として困る」と気付いたら、「『もう手遅れ』とあきらめずに、今からでも教えなければ!」ということ、改めて学んだのでした。